5枚シナリオ
赤い服

「これが常識」

脚本猫柳　ふろゆ

登場人物

三船陽介（２２）就活生。面接を控えている。

寺田航大（２２）三船の同級生。

新村和也（５３）うどん屋の大将。

○うどん屋『吸うドン』・外観（夕）

木造の小さなうどん屋。

暖簾には『吸うドン』の文字。

○同・店内（夕）

三船陽介（２２）と寺田航大（２２）がカウンターに座っている。

白い調理衣を着た新村和也（５３）がうどんを二人の机の前に置く。

新村「へい、お待ちどうさん、うどんさん」

三船、うどんを見て、

三船「いつもより大きくない？」

寺田「（うどんを確認）本当だ。大将！　これ、大になってるよ」

新村「明日は二人とも就活の一次面接なんだろ？　ならいっぱい食べなあ」

寺田「大将、あざます！　頑張ります！」

親指を立てて厨房内に戻る新村。

三船「なあ航大。自由な服装でお越しくださいって要項に書かれていたら何着てく？」

寺田「そりゃお前、スーツで来いって言われてるようなもんだろ」

三船「だよな？」

寺田「常識だよ。日本人なら周りに合わせられて当然。そういう協調性を企業は見てんだよ」

三船「オッケ。サンキューな」

三船、割り箸を手に取り、割る。

○株式会社『フラミンゴフーズ』・入り口

銘板には『株式会社フラミンゴフーズ』の文字。

○同・廊下

扉には『面接控室』と書かれた張り紙。

その扉の前に立っているのは黒いスーツを着た三船。

ネクタイを整え、深呼吸をする。

三船「よし」

三船、ドアノブに手を掛ける。

○同・面接控室

面接控室には赤いスーツを着た就活生たちがざっと五十人ほど椅子に座っている。入り口には三船。

三船「……（あ然）」

三船、後方の席に座り、隣の赤いスーツを着た就活生を見る。

三船「（小声）あ、あの。今日って赤いスーツの指定はありましたっけ？」

就活生、無視。

その逆隣に赤いスーツを着た就活生が新たに座る。

三船、肩を縮める。

赤いスーツ郡の中に一人だけ浮いてしまっている黒スーツの三船。

○うどん屋『吸うドン』・外観（夕）

○同・店内（夕）

三船、カウンターに座っている。
新村、うどんを三船の前に置く。
新村「へい、おまちどうさん、うどんさん」
三船「大将。強いお酒ってある？」
新村「うちはうどん屋だよ」
三船、大きくため息を吐く。
新村「そうクヨクヨしなさんな。企業なんて
いっぱいあらあ」
三船「第一志望だったんスよ」
と、そこに入り口の扉が開く音。
新村「お、航大君。面接どうだった？」
三船「なあ聞いてくれよ航大。今日面接で俺」
三船、振り返り入り口を見る。
そこには赤いスーツを着た寺田。
三船「……（あ然）」
×　×　×
笑っている寺田。
寺田「バカだなぁ。今季のトレンドは赤なん
だよ。だから就活は赤スーツ！　常識だろ」
三船「は？　そうなの？」

新村「それは俺でも知っていたなぁ」
寺田「駅のエスカレーターは片側を空ける。電車ではお年寄りに席を譲る。法律で決まっていなくても守らなきゃならねーよ。それがルールで常識。社会人なるんだから」
三船「ふーん。なるほどね」

○株式会社『ライオンフーズ』・廊下
扉には『株式会社ライオンフーズ・面接控室』と書かれた張り紙。
その扉の前に立っているのは赤いスーツを着ている三船。
ネクタイを整え、深呼吸をする。
三船「今度こそ、よし」
三船、ドアノブに手を掛ける。

○同・面接控室
椅子に座った黄色いスーツを着た五十人ほどの就活生が入り口の三船を見る。
三船「……（あ然）」　（終わり）